

【インドネシア研修報告1】

プログレシフ ブミ シャラワット高校での現地研修が始まりました。
イスラム教の学校ということで、滞在中は長いスカートをお借りすることになりました。
朝6時にホテルを出発したのですが、道路は人と車とバイクがあふれていて驚きました♪
毎朝行われる朝礼で私たちの歓迎会をしてくださいました。



校舎には私たちを歓迎するメッセージが入った横断幕が掲げられていました。
一人一人がインドネシア語と英語で、約 1000 人の相手校の生徒や先生方を前にこやかにあいさつすることができました。
私たちのスピーチに、相手校の生徒さんたちが温かい反応を返してくださったので、とても安心しました。



研修の初日、生徒たちは学校ではすべて英語で話すという目標を立てました。
最初の授業では、インドネシアの伝統的なゲームを体験しました。
チームに分かれ、インドネシアの高校生と英語で意思疎通しながらゲームを楽しみました。このゲームはDakon（ダカン）といいます。



一緒にゲームをしたみんなで記念撮影をしました。
インドネシアの伝統的なダンスのポーズです。



2時間目は学校の施設を見学しました。女性用のモスクは全面白色で厳粛な雰囲気でした。理科の実験室には、様々なサイエンスコンテストで受賞されたトロフィーが飾られていました。担当の先生にお話を伺うと、生徒の皆さんはとても熱心に勉強するのだとおっしゃっていました。



本日のメインイベントは、バティック体験です。普段プログレシフ ブミ シャラワット高校では授業として行っていないのですが、今回は特別にワークショップを実施してくださいました。バティックの模様はインドネシアの地方ごとに異なり、生徒たちは自分たちの好きな模様を選ぶことから始めました。インドネシアの先生や生徒の皆さんに教えてもらいながら自分の作品を作りました。一緒に一つのことに打ち込むことで、交流が深まりました。







今日のプログラムで、インドネシアの伝統文化に触れ、生徒たちのインドネシアの人々や文化への興味、関心が高まったと感じています。



※インドネシアの高校生からもらったお菓子（バティックで染まった手で）